



ピエトロ・パロリン枢機卿 来阪

開かれた共同体としての使命
他者を受け入れることは
キリストを受け入れること

6月28日・29日に、バチカン市国国務長官を務めるピエトロ・パロリン枢機卿（以降、パロリン枢機卿）が来阪された。大阪では、大阪・関西万博ナショナルデーでバチカンが担当となっていたのでイベントへの参加（2面）やカテドラルでミサをさせられた。

ミサ参列者を祝福するパロリン枢機卿



セキュリティチェックを受ける参列者

6月29日の18時から、聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日を集まった1150人の会衆とともに祝った。ミサの主司式はパロリン枢機卿で、脇付に前田万葉枢機卿と教皇大使エスカランテ・モリーナ大司教がつき、中村倫明長崎教区大司教、大塚喜直京都教区司教、勝谷太治札幌教区司教、白浜満広島教区司教、酒井俊弘大阪高松教区補佐司教をはじめ、30人近い司祭・助祭が共同司式として集まった。聖堂を埋め尽くす会衆の中には、各国の大使も参加をされたため、手荷物検査と金属探知機による検査が行われた。

ミサは、英語を中心として進められたが、朗読や聖歌などは各国語で捧げられ、現在の教区を示しているかのようにな文化・多言語による盛大なミサとなった。

パロリン枢機卿は、説教で

聖ペトロと聖パウロの信仰の証しを軸に、教会の一致と普遍性について力強く語られた。

第一に、祭壇のもとに集まる喜びを伝えられ、聖ペトロと聖パウロ使徒の祭日であることを強調し二人の使徒の違いと共通性（性格・背景・使命）に触れ、二人の殉教がローマ教会の礎となった歴史的意義を話された。

第二に、教皇の役割とその源泉について話され、教皇は一致と宣教の中心であり、聖ペトロの信仰告白（マタイ16章）に基づく首位権の説明と教皇の使命は「奉仕」であり、「支配」ではないことを明確にして伝えられた。

第三に、「つなぐ」「解く」権能と教会の使命について話され、ペトロに与えられた鍵と、それが教会全体に引き継がれたこと、そして教導権と聖霊の導きとの関係について話された。



感謝の祈りに耳を傾ける司教たち

第四に、聖パウロの証しと謙遜について話され、自らの使命を「神の器」として理解するパウロの教会への奉仕としての生涯を黙想された。

第五に、今日の教会へのメッセージとして、信仰の一致（ペトロ）と教会の普遍性（パウロ）を現代に再確認し、聖イレネオが説いた、教会の教えの一貫性と普遍性を強調された。

また、日本の教会に対して、外国籍信徒の増加という現状を背景に、開かれた共同体としての使命と他者を受け入れることはキリストを受け入れることであること話され、信仰の一致と福音宣教への特別な決意の呼びかけであった。そして最後に、聖母マリアへの祈りをもって説教を終えられた。

パロリン枢機卿の説教は、聞き手に対して温かく呼びかけるような言葉で、メッセージが一人ひとりに届くように伝えられていた。また日本社会の状況に触れながら実践的な呼びかけを盛り込み、荘厳であり説得力があった。

ミサの最後に、パロリン枢機卿の来阪に感謝を伝えるために、子どもたちから記念品と花束とメッセージが送られた。担当した子どもたちにと手添えて励まされるとともに、子どもたちの言葉に耳を傾けられていた。パロリン枢機卿の霊名の祝日もあったことから、メッセージの中で霊名のお祝いを伝え、枢機卿がバチカン代表として「平和・和解・いのちの尊重」に取り組んでおられることへの敬意や、聖年のテーマ「希望の巡礼者 希望は欺かない」から、困難の中に希望を見いだし、人に思いやりを持って接することの大切さを学び希望を届けられる人になりたいという夢が伝えられた。

（文 教区本部事務局）



9
2025

発行所
大阪府中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700 (代表)
TEL (06) 6946-3223 (直通)
FAX (06) 6946-3224 (直通)
E-mail: kyokuh@ostk.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙
「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み
「点訳版（点字本）」
教区報 ☎ 06-6946-3223 (直通)
☎ 06-6946-3224 (直通)
「音訳（テープ・デジ）」
山口さん ☎ 0798-34-4228

☆ バチカン市国バチカンデー
☆ すべてのいのちを守るための月間
☆ ドミニコ会司祭叙階式
☆ 住吉教会90周年記念ミサ
☆ 広報委員会へのEメールアドレスは kyokuh@ostk.catholic.jp

☆ 聖年に捧げるコンサート
☆ 平和月間7月開催報告
☆ 宗教教育研究会
☆ バチカンニュース
(3面) (2面) (4面) (5面) (6面) (7面)

『教区報』原稿
資料等の締切は
前々月末です。



聖堂は多くの参列者で埋めつくされた



感謝を伝えるこどもたちの言葉に耳を傾けるパロリン枢機卿

美は希望をもたらし



西本智実さんの指揮による演奏とともに
背景にはバチカンのさまざまな映像が映し出された

当日は、パロリン枢機卿の挨拶に続き、西本智実さんの指揮によるモーツァルト作曲《戴冠式ミサ》ハ長調K.317が荘厳に演奏された。この演奏には、長崎・広島・大阪から集まった小学生から大学生までの学生が参加し、音楽を通じて平和と希望のメッセージが発信された。



展示物を見学するパロリン枢機卿

枢機卿は早朝より精力的に活動され、万博会場の開場時間である午前9時には迎賓館に到着されていた。ナショナルデーの式典までの間には、イタリアパビリオンおよびバチカンパビリオンを視察の後、「レイガールデン」にてナショナルデーに出席された。その後も、日本、サウジアラビア、アメリカの各国パビリオンを見学になり、途中、大屋根リングの下では出会った子どもたちに温かい笑顔を向けられるなど、終始和やかな雰囲気で見学を続けられた。



スピーチの結びでは、教皇レオ十四世による平和への呼びかけを引用し、対話と協力を通じたより良い未来の実現に向けて、グローバルな連帯と希望を共に築くよう訴えられた。

また、バチカンパビリオンのテーマである「美は希望をもたらし」に関連し、キリスト教における「美」と「希望」の象徴的意義についても述べられた。キリストは「美の最高の表現」であり、希望の源であるとされ、この価値観を万博を通じて世界と共有したいとの意図が示された。バチカンパビリオンは、「美」と「希望」という普遍的な価値をテーマに掲げ、それらが人びとの心を癒やし、連帯と平和を促す力を持つことを強調していた。

ナショナルデーでのスピーチにおいては、聖座と日本との歴史的な交流と友好の深化に触れられた。470年前の日本人カトリック信者による教皇謁見さらに天正遣欧使節団(約440年前)や慶長遣欧使節(約410年前)など、長きにわたる関係の深さが紹介され、今後のさらなる発展への期待が語られた。



式典でスピーチをするパロリン枢機卿

7月20日、イタリアのモリーゼ州から教区へ寄贈された釣鐘を大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂前庭に設置し、前田万葉枢機卿による設置披露祝福式および感謝ミサが執り行われ、この鐘を「愛と平和と希望の鐘」と命名された。

— 愛と平和と希望の鐘 —

モリーゼ州寄贈の釣鐘が設置されました

その一環として、モリーゼ州は「過去と未来の間で芸術、製品、職業を通じて生命を再生する」をテーマに掲げ、7月6日から12日までの期間に展示を行った。

イタリアパビリオンでは、万博開催期間中、週替わりでイタリア各州による特別催事を実施している。テーマは「芸術が生命を再生する」であり、各州がこの理念に基づき、特産品や音楽、美術館の所蔵品などを持ち寄り、訪れる人びとを楽しませる工夫が施されている。

イタリアパビリオンでは、万博開催期間中、週替わりでイタリア各州による特別催事を実施している。テーマは「芸術が生命を再生する」であり、各州がこの理念に基づき、特産品や音楽、美術館の所蔵品などを持ち寄り、訪れる人びとを楽しませる工夫が施されている。

大阪・関西万博のイタリアパビリオンは、連日多くの来場者で賑わい、待ち時間が2〜3時間に及ぶことが常態化している。その要因として、多くのパビリオンが映像を中心とした展示であるのに対し、イタリア館では彫刻や絵画といった「本物の芸術作品」が展示されている点が挙げられる。



週替わりの特別催事でモリーゼ州が展示した釣鐘を前田枢機卿が祝福した

同州には、サンピエトロ大聖堂の釣鐘を製作したプレミータ・フォンドリア・マリネッリ社の工場があることから、釣鐘を鑄造して展示した。高さ110cm、直径105cm、重さ750kgある釣鐘は、行き交う人が自由に鳴らすことができるように屋外に展示されていた。



- ① 日本とイタリアの国土
 - ② モリーゼ州が催事のロゴとして制作した「モリサクラ」(モリーゼと日本の桜を融合させたデザイン)
 - ③ 広島県の原爆ドーム
 - ④ 万博イタリア館のマスケット「イタリアちゃん」と万博のロゴ
- この鐘は現在、常時見学可能である。
(文 教区本部事務局)

すべてのいのちを守る月間

9月1日～10月4日

2019年、教皇フランシスコが「すべてのいのちを守るため」をテーマに来日し、多くのメッセージを残されました。それらに答え、実践的な行動を呼びかけるために日本の司教協議会は9月1日～10月4日を「すべてのいのちを守るための月間」と制定しました。教区ではより実践的な取り組みとなるように基金を設立し、すべてのいのちを守るための活動をしている団体や被災地へ支援金を送っています。2024年度は3,475,805円の献金があつまり、下記団体へ支援金をお送りしました。

- ・こうのとりのゆりかご in 関西 (赤ちゃんの命を守る活動)
 - ・核なき世界基金 (核廃絶)
 - ・カリタスジャパン (能登半島地震復旧支援)
 - ・名古屋司教区 (同上)
- ※全壊した輪島教会は再建され、献堂式が行われる。

支援先



釣鐘設置祝福式をする前田枢機卿

大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂をバックに、存在感あふれる「愛と平和と希望の鐘」→

第3回 教区宣教司牧評議会

残された聖年の日々の為に



炎天下の中7月5日、第3回教区宣教司牧評議会が司教館で開催された。ピエトロ・パロリン枢機卿の来日により突然日程を変更する事となったが、多くの参加者が集い、開催の恵みを共にすることができた。

今回の大きなテーマは、「聖年の後半の過ごし方について」。残り半年を切った終わりが見え始めた聖年を、むしろより豊かな恵みを感じられる期間とするために何に取り組むべきか、また教区全体に対してどんな呼びかけができるだろうか。そのような議題を掲げての開会となった。

前回と同じく午前11時より始まり、いくつかのグループに分かれて、まずは相互理解のために、交流時間を過ごした。日常的な話題を用いてそれぞれの近況や思い出などを共有することで、議題に向けて肩の力を抜く事ができた。

昼食をはさみ、午後には議題への導入として、すでに聖年として活動をされた方々を招き、体験談を話し

ていただいた。各地への巡礼を通して、教会の人びとの温かさや祈りの深さ、また教会の歴史の重みといった信仰の恵みを目の当たりにした時の鮮烈な経験が、私たちにも十二分に伝わってきた。その後グループごとに、霊における会話形式を用いてそれぞれの思いを分かち合った。聖年の原点、巡礼と巡礼者を迎える姿勢、教会の歴史、日常的な祈りや歌、多くの視点から意見が集まり、実り豊かな会議となった。

先述の通り、教区全体への呼びかけの文書を作成しているの、発信されていればぜひ一読いただきたい。

(文 教区宣教司牧評議会運営委員会 大久保武)



神に召し出された新司祭の誕生

松山教会で郵便配達青年が洗礼を受け、評議会議長を務め、そして司祭になるという、ドラマのようなことがあった。主はどこに召しだしを見いだされるかわからない。司式のアベイヤ司教は、式の最後に、侍者を務める少年たちに向かって「君たちも準備していなさい」と声をかけられた。邦人司祭の召命が少ない中、心あたたまる叙階式であった。

6月28日、松山教会でヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区)主司式、ドミニコ会司祭を中心に約30人の共同司式による司祭叙階式が行われた。新司祭はヨゼフ・ガブリエル兵頭俊介。県内外から約70人の信徒が参加し、新司祭の誕生を祝った。

聖ドミニコ修道会ロザリオ管区司祭叙階式
召し出しは日常の中に



聖ドミニコ修道会会員に囲まれて

ヨゼフ・ガブリエル 兵頭俊介 (0.9.)

1979年 12月13日 愛媛県松山市生まれ
2016年 聖ドミニコ修道会入会・フィリピン(マニラ)志願期
2017～18年 修練期・初誓願 聖アルベルト修道院(香港)
2018年 University of Saint Joseph Bachelor of Christian Studies 入学
2023年 University of Saint Joseph Bachelor of Christian Studies 卒業
2023年 終生誓願 聖ドミニコ修道院(マカオ)
2024年 助祭叙階(松山教会)/司牧実習(箱崎教会〈福岡〉)
2025年 中学・高校一種宗教教員免許取得のため南山大学入学



茶話会で創立90周年を祝う



教会学校の子どもたちが作った貼絵

住吉教会創立90周年

生きた教会として希望をつなぐ

7月6日、住吉教会で創立90周年を記念するミサが行われた。200人を超える信徒が集い、聖堂内は祈りと感謝の熱気に包まれた。



90年の恵みに感謝し、新たな希望を祈る

主司式は酒井俊弘補佐司教であり、共同司式には諏訪榮治郎名誉司教、和田幹男神父、金台根神父、ブイシガ・ブレイズ神父、コンスルタ・コンスタンシオ神父、谷口幸紀神父が加わった。

説教の中で酒井司教は、教会の将来については誰にもわからないが、今を生きる私たちが「生きた教会」として希望をもって歩むことの大切さを語った。そして、90年の歩みをただ懐かしむのではなく、「時のしるし」を識別し、一人ひとりが神に呼ばれて教会の一部とされていることを実感しながら、社会にキリストをもたらす使命を果たすようにと促した。

この記念ミサは、評議会

を中心に早くから準備が進められた。やるべきことは多かったが、各チームが自らの経験と得意分野を生かし、協力して一つひとつを乗り越えていった。当日の茶話会の食事や出し物の準備、受付や案内の誘導などにも多くの信徒が力を尽くし、まさに教会全体がひとつになって迎えた記念の日となった。

ミサ後には、普段は多忙でなかなか教会に足を運べない人びとや、遠方から訪れた旧知の仲間たちが、懐かしそうに語り合う姿も見られた。それぞれの人生と信仰の歩みが交差するひとときは、まさに「生きた教会」の姿を表していた。

(文 評議会議長 酒井弘之)



言葉を超えてともにささげるミサ

国際ミサ

愛媛地区南予ブロックの青年による

6月29日、聖ペトロ・聖パウロ使徒の祭日にあたり、八幡浜教会で、愛媛地区南予ブロックの青年たちによる保護の聖人・聖ペトロを記念する国際ミサが行われた。

当日は、35人（ベトナム人青年23人・フィリピン人信徒6人・日本人信徒6人）が参加し、言語や国籍を超えた祈りと交わりのひとときとなった。

ミサ後には隣接する八幡浜聖母幼稚園でバーベキューパーティーが催され、青年たちは祈りに続いて食卓を囲み、笑顔と歓声に包まれた時間をともにした。信仰のうちに集い、聖ペトロの祝福を共に分かち合うこのひときは、地域教会にとっても大きな励みとなった。

（文 愛媛地区広報担当 清水裕子）



小豆島教会

高山右近祭



小豆島の領主であった小西行長に着目して、分かち合いが行われた。

7月6日、小豆島教会で高山右近祭が行われ、島外からも42人の参加があり、無事に終えることができました。小豆島教会の信徒たちが、誰に言われるでもなく、自分にできることを率先して、心をこめて懸命に働いたおかげです。

私は90歳まで、神や信仰について考えることのない人生を歩んできました。しかし4年前、初めて教会の門をくぐり、神父や信徒の皆さまの導きによって神と聖霊を信じるようになりまし。そして去る4月、洗礼の恵みに与りました。これからは、さらに信仰を深めていきたいと思っています。

（小豆島教会信徒 伊藤明子）

〈高山右近祭の始まり〉

もともと玉造教会（大阪）にあった高山右近像が2007年に修復のうえ小豆島教会に移設された。翌2008年に第1回高山右近祭が始まり、今年で第16回を迎える。

主 催：カトリック大阪高松大司教区典礼委員会

講 師：西川康廣師

場 所：共同司教座聖堂 桜町教会聖堂（高松市桜町1-8-9）

日 時：2025年10月25日（土）13時から

参加できます

どなたでも

典 礼 委 員 さんでなくても

参加できます

それぞれの奉仕について心を養う時間にしませんか

事前申し込み不要

救いの業を記念する典 礼 奉 仕
様々な役割に光を当てる



カトリック大阪高松大司教区典礼研修会



希望の光



若者たちの歌声が響いた聖年コンサート

あいにくの雨にもかかわらず、多くの人に足を運んでいただけた。

出演したのは、教会からカトリックなみはや教会とカトリック枚岡教会の青年・青少年。カトリック系学校からは城星学園小学校聖歌隊、ヴェリタス城星学園高等学校聖歌隊、吹奏楽部・軽音楽部、明星中学校・高等学校グリークラブの生徒たちであった。

命に練習してきたことが伝わってきた。演奏を聴きながら、会場全体が喜びと感謝の気持ちに包まれた。

（文 聖年コンサート担当 田 仲 仁）



聖年のテーマソング『希望の巡礼者』を参加者全員で合唱する

オープニングセレモニーの後、ヌノ・リマ神父（聖年万博委員会委員長）が聖年について語り、参加者は貴重な話に耳を傾けた。本編では、合唱、吹奏楽や軽音楽部による演奏、手話を交えた歌唱など多彩な演出が披露され、若者たちがこの日のために懸命に練習してきたことが伝わってきた。演奏を聴きながら、会場全体が喜びと感謝の気持ちに包まれた。

最後には、今回の聖年のテーマソング『希望の巡礼者』を全員で合唱した。日本語とベトナム語で歌われたその響きは、出演者と来場者とをひとつに結びつけた。

若者の力は教会にとって希望の光であり、未来の宝であることを改めて実感したコンサートであった。この催しに尽力した教会関係者、学校関係者に心から感謝をささげたい。

今回は聖年閉年コンサートが予定されている。再び多くの人が集い、喜びを分かち合えることを願っている。

迫害の中でも揺るがぬ信仰



高山右近の肖像画

村田佳代子画伯寄贈

主催：大阪高松教区 障がい者委員会

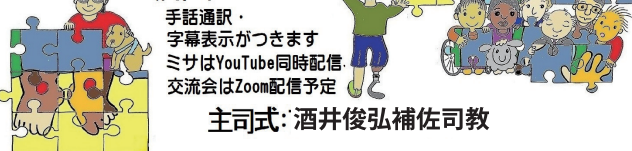
「病者・障がい者と
ともに歩むミサ」と交流会

日時：2025年9月23日（火曜日・祝日）
午後1時～

場所：共同司教座聖堂 桜町教会
（高松市桜町1-8-9）

手話通訳・
字幕表示がつきます
ミサはYouTube同時配信
交流会はZoom配信予定

主司式：酒井俊弘補佐司教



「ミサ関係者と障がい者・ヘルパーの方のために、当日大阪カテドラルから高松桜町教会・コンカテドラルまでのバスをチャーターします。障がい者委員会（cjc@ostkatholic.jp）までお問い合わせください」

平和月間 2025 大阪高松大司教区



希望と平和の巡礼者となろう

～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～

Let's be Pilgrims of Hope and Peace

-A path to walk with people who suffer and grieve-



世界中が様々な戦闘・紛争で分断され、多くの人々が虐げられている現実を目にする毎日です。大阪高松大司教区では、聖年である本年、「苦しむ人、悲しむ人とともに歩む」決意をし、試行的に7月、8月を「教区平和月間」と設定しました。このことにより、自教会以外の企画へ参加することも可能になり、小教区間の交流の機会も増えることを願っています。「平和月間」として、期間が長くなったことについて、「余裕をもって計画できた」、「開催案内集を見て、他の会場の企画にも参加できる機会が増えて良かった」、「平和について考える期間が長くなったことは意義がある」、「この地の空襲が7月だったので、月間となったことで地域ともつながった形で平和を考える機会となった」など、おおむね評価をいただけたと感じています。今月号では、主に7月中に「平和月間行事」を実施された地区・小教区の内容をご紹介します。

《姫路地区》

◆姫路地区宣教評議会主催

「希望の巡礼者」のテーマにより、7/12（土）加古川教会、8/2（土）相生教会、8/9（土）姫路教会の3つの教会で、聖母出現について黙想し、分かち合った。姫路教会で平和祈願ミサと聖体賛美式を行った。「希望の巡礼者」という聖年のテーマに沿って巡礼し、グアダルupe、ルルド、ファティマの聖母出現について黙想と祈りをし、聖体顕示台のご聖体に「神の臨在」を確信した。長崎原爆忌には用意された長崎の鐘が鳴り響き、平和の祈りを捧げた。相生教会では、世界中から集められたストラが聖年中、常設される。



◆豊岡教会

7/13（日）DVD『あの日ーこの校舎で一五十年前に被爆したナガサキの記憶ー』を鑑賞し、感想を分かち合った。今までに見たことがない映像を見て、普通の災禍ではないという思いを共有した。長崎の閃光の記憶が生々しい方は、「今でも雷が鳴ると原爆の閃光を思い出しフラッシュバックする」と語られた。反核運動は、国内以上に海外へ発信していく必要を強く感じた。核廃絶の動きが世界に広がることを願った。

8/3（日）前回鑑賞したDVDの分かち合いから、能動的思考で意見交換した。



◆姫路教会

7/20（日）「世界平和の実現へ」をテーマに、被爆体験者で核兵器廃絶運動の語り部・林勝美さんの講演会を行った。戦後80年、高齢になられた被爆者が貴重な体験を伝えようとされていることを通して、核兵器を廃絶し、平和を実現していくためにはどうしたら良いかを分かち合った。平和の実現には対話と相互理解、被爆者の想いを受け継ぎ、平和を求める声をあげ続けることが大切だと思った。



《神戸地区》

◆神戸地区社会活動委員会主催

ふっこうのかけ橋実行委員会後援

7/12（土）南相馬市小高区「おれたちの伝承館」館長・写真家 中筋 純さんの講演で、原発被災地の現実を知った。生まれ変わった道の駅等の報道で、復興が進んでいるように見えるが、誰も足を踏み入れない廃墟のような地域が多くあることを知り、復興という名前でごまかされず、現実を知らないといけないと思った。講演後は平和祈願ミサで、平和を祈った。



◆北須磨教会

7/6（日）ミサ後、朗読会 永井隆博士著「長崎の鐘」から15シーンを切り取り、一人1シーンずつ朗読した。朗読会の前後には、テゼの「平和を祈る」を5節ずつ全員で斉唱し、祈りに代えた。医師の立場から見た話も貴重だったので、体験者の話を風化させてはいけないと思った。期間中、平和に関する本の貸し出しも行った。



◆垂水教会

7/13（日）～8/17（日）教会の平和の教えに立ち返り、識別し何をすれば良いのかを考えるように、3つのテーマで展示をした。

1. 「私たちの現状」コーナー：ライフル銃、紛争地の写真、ポスター、憲法9条の毛筆書を展示
2. 「教会が示す平和」コーナー：子ども会で描いた希望のポスター、折鶴、教皇の著書など、平和の絵本、アジジの聖フランシスコの祈りの毛筆書を展示



3. 「私たちの挑戦」コーナー：中高生が描いた わたし達の将来についてのポスターを展示。

7/13（日）：「平和のために何をしなければいけないのか？」をテーマに分かち合いと祈りの時間を持った。分かち合いが活発でポスター制作も楽しかったと好評だった。

◆たかとり教会

7/13（日）母国ベトナムを離れ、来日している青年は約500万人。お互いを知ることで、愛と一致に満ちた教会を目指したいと考え、教会に来られている青年に「いつ、どんな目的で来日したのか、日本の生活で困ったこと、嬉しかったこと」などを話していただいた。率先して話しかけをしていきたいと思った。



◆神戸中央教会

7/13（日）平和祈願ミサ後、映画上映会「壊された5つのカメラ パレスチナ・ビリンの叫び」を鑑賞。「生まれてくる場所を選べない子どもがかわいそうに思った」「人間は、何度も戦争を始めてしまうが、戦争を止めることができるのも人間なので、知恵を出して早く平和が来ることを願う」という感想があった。中高生の皆さんが、平和への想いや祈りを書いて平和ツリーに貼り、平和を願う思いを皆で共有した。



◆六甲教会

7/27（日）托鉢をしながら全国を回り、冤罪者の命を救う運動をされた、亡き父・古川泰隆師の遺志を受け継いだ古川龍樹師の話聞いた。今回は、「福岡事件」で冤罪のまま死刑執行された西武雄さんを取り上げた。今日の司法の歪みを是正して、死刑制度の見直し、再審請求の見直しによって、歪んだ法の下で死刑台に上がらなくても済むような運動を続けていく師の熱意が感じられた。命を大切にする社会を作っていくことを共感し合い、師の運動を支援する人が増えることを願う。



《阪神地区》

◆阪神地区主催

会場：芦屋教会 6/22（日）①戦争体験が元の紙芝居「いくさの少年期」をプロのナレーターが演じた。②DVD『もう一つの沖縄戦記』を視聴し、沖縄戦を体験した子ども達の証言を学んだ。③沖縄平和学習（3月）の報告を川邨神父が行った。米軍と日本軍の激戦地を巡った様子から、6月23日の「沖縄慰霊の日」を大切にし、戦争を振り返る機会とした。

◆**芦屋教会** 7/27 (日) 講演会「核兵器廃絶へ被爆者として生きて 80 年」
被爆二世の千葉孝子さんのお話から、被団協の地道な活動を知り、身近な事として考えることができた。
*信徒全員に「平和へのメッセージ」を書いていただき、カードを教会の外に向けて掲示し道行く人に“平和を望む思い”をアピールした。



◆**武庫之荘教会** 7/20 (日) ミサ中、手織り折り鶴奉納。諏訪司教のギター伴奏でテゼの祈りをした。ミサ後、グエン・フィさん(園田教会信徒)による「ベトナム難民移住 50 年に際し、今後の移民問題に関して」講演会と質疑応答。その後、「平和のテーマ」の分かち合いのお茶会。ミサ中、諏訪司教は、ジャック・アタリの『21 世紀の歴史』から、いずれ世界を支配するのは経済で、世界は無秩序となり、争いや難民が増え、人々の心は悲しみしか残らない。人々は気づく…その時必要なのは福音だ、と語られた。福音と共に歩んでいきたいと思った。



◆**阪神地区 9 教会合同 平和祈念ミサ**
7/21 (月・祝) 主司式: 酒井俊弘補佐司教。諏訪榮治郎名誉司教はじめ阪神地区 9 教会の主任司祭による共同司式。会場: 夙川教会聖堂。式次第作成などミサ準備は地区典礼委員会担当。典礼奉仕、堂内案内などは 9 教会で分担。高松市の桜町教会巡礼団(松浦信行神父と 30 名)も共にミサに与られた。参加者 260 人。酒井司教が説教で語られた「戦争で苦しんでいる人々にとって、全世界で捧げられる祈りが希望を抱く力(絶望からの回復力)になっている。祈り続けて平和への道をと共に歩んでいきましょう」という言葉に、「希望の巡礼者」として歩む勇気をいただき、2018 年以來の合同ミサは平和を求める気持ちが一になり、大変意義があった。



◆**夙川教会社会活動委員会**
7/21 (月・祝) 阪神地区 9 教会合同の平和祈念ミサに引き続き、「被爆バイオリンとチェロで奏でる平和への祈り」ミニコンサートを実施。バイオリン演奏: 伊藤さくらさん、チェロ演奏: グスタフ・ヴォッヒヤーさん。唯一現存する被爆バイオリンは、ロシア革命のときに祖国を離れ、亡命先の広島で被爆したセルゲイ・バルチコフさんの大切な楽器で、今は広島の平和公園レストハウスに保管されている。被爆バイオリンで奏でるバッハの「G 線上のアリア」が、聖堂に響きわたり、祈りとなった。改めて平和の大切さを実感し、同じ過ちを繰り返さないようにと世界平和を願い、祈った。



◆**甲子園教会** 7/27 (日) 被爆二世の方のお話を聞いた。戦後 80 年の年に、以前被爆者証言をしていただいた方に連絡したら、亡くなられていた。被爆者の声を聞くことができないと思ったが、その方の奥様も被爆二世で、亡夫の遺志を継いでお話をしていただいた。原爆の残酷さや平和の尊さを痛感。



◆**伊丹教会** 7/27 (日) 「平和を求めるミサと歌の集い」世代を超えて誰もが歌いやすい曲を選んだ。平和に関連する聖歌を管弦楽アンサンブルの有志の方々に伴奏していただいて、歌唱した。平和の大切さを考え、祈り、何か行動することに気づくことや、教会から遠のいている人がミサに与ることができること…などを大切にして企画した。



《北摂地区》

◆**高槻教会** 7/6 (日) 「海外生活を通してステレオタイプについて考える」、7/20 (日) 「犯罪と社会～新しい刑罰の導入と社会復帰支援」。通常開催している「社活力フェ」の一環として、質疑応答で分かち合った。拘禁刑の導入によって受刑者が社会復帰し、再び「生き直す」ことができる社会になることを願う。



◆**箕面教会** 6/29 (日) 「寅さんとイエス」の著者・ドミニコ会の米田彰男神父に、「男はつらいよ」シリーズを題材に、寅さんとイエスの生き方の共通点についてお話いただいた。当時の常識を超えて、弱者と共に在るイエス様に近づくことができ、福音を生き、平和な社会実現のために身近で取り組めることを考えるきっかけになった。



《大阪北地区》

◆**大阪梅田教会** 7/17 (木) 19 時～ 毎月サクラファミリアが開催している「祈りのよる」に共同参加。特に「世界平和」のために祈った。
世界共通語ともいえる音楽、数の力を取り入れたテゼの祈りで世界平和への願い・祈りを共有することをめざした。



下瀬神父がテゼ共同体の始まりや背景について話してくださり、宗派を越えて世界中からテゼ共同体に集まる若者のように、世界中がテゼの歌に包まれて平和になれば良いのと思った。

《大阪南地区》

◆**大阪田辺教会** 7/6 (日) 平和祈願ミサ後、上映会: 『荒野に希望の灯をともし〜医師・中村 哲 現地活動 35 年の軌跡〜』アフガニスタンとパキスタンで病や戦乱、干ばつに苦しむ人々のために 35 年にわたり活動を続けた中村医師のぶれることのない姿勢に思いを馳せ、平和の尊さを多くの人に伝えていきたい。



◆**生野教会** 7/13 (日) 多文化共生の街として外国人と平和に暮らす素晴らしさと、もっと良くするために、2 つの上映会を実施。



* だからここで生きていく
～共生のとりで大阪・生野～
* 知っていますか?
ハンセン病問題

平和のメッセージカードを奉納し、教会入口に掲示。外国人と平和に暮らすことの素晴らしさを考え、すべてのいのちを守る教会をめざしたいと思った。

◆**住之江教会** 7/13 (日) 「今、動こう。私たちの子ども、私たちの孫が戦争に巻き込まれないために」のタイトルの講演会。講師は、シナピスのビスカルド篤子さん。内容は、「80 年間、どこにも侵略せず誰も殺さなかった日本社会。この先もずっとそんな国でありたいと願いつつ、平和の巡礼者となれる道を探す」。



《岸和田地区》

◆**浜寺教会** 7/27 (日) 「パレスチナ問題」勉強会。ガザについて、14 分の YouTube 動画を視聴。40 人が 5 グループに分かれ(1 つはベトナム人信徒)分かち合いをした。援助物資がガザに届かない現状が苦しい。痩せ細っていく子どもたちに何もできない事が辛い。パチカンが世界平和の先導を担うことができないものか。私たちに何ができるかを考えたいと思った。



◆**岸和田教会** 8/3 (日) 1. 前教皇フランシスコ 2019 年広島平和メッセージの動画を視聴。2. パレスチナ紛争の影響を受けるレバノンの現況について、当教会のレバノン人信徒の報告を聴く 3. 平和の口ザリオの祈り 4. 平和を願う鐘を鳴らすウクライナ、パレスチナ・ガザ地区での戦禍に苦しんでいる人たちや子どもたちの現状を知り、一日も早く平和に暮らせるように祈った。初めての試みとして、近隣の方々に案内ポスターを配布し、参加を呼びかけた。



《高知地区》

◆**中島町教会** 7/27 (日) 平和祈願ミサの準備として、事前に平和の祈りカードへの記入を呼びかけ、共同祈願に織り込んだ。聖体拝領後にテゼの祈りを捧げた。NHK こころの時代 古巣馨神父『長崎の祈り 水がめを運ぶ人々に導かれて』上映会を実施。平和について考える機会となり、「平和の原点は赦しだと思った」という感想があった。高知空襲が 7 月 4 日だったので、地域とも繋がる形で 7 月に実施できて良かった。



バチカンニュース

教皇レオ14世のミサ説教から
敬聴と奉仕



《世界と宗教対話を深めるために、バチカンの動向を日本の視点でお届けします》

教皇レオ14世は、アルバーノ教区(イタリア・ローマ近郊)の司教座聖堂(カテドラル)で、7月20日、主日のミサをささげられた。

教皇は説教の中で、神をどのように迎え入れるべきかというテーマを示し、この日の福音朗読から、ルカ福音書のイエスがマルタとマリア姉妹の家に迎えられた際のエピソード(ルカ10,38-42)を取り上げられた。

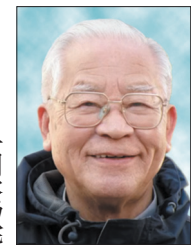
イエスを家に迎えたマルタはいろいろのもてなしのためにせわしくたち働き、一方、マリアはイエスの足元に座って、その話に聞き入っていた。

レオ14世は、この二人の姉妹の態度や価値を対立させて見ることは誤りであると話され、傾聴と奉仕は、神を受け入れるために必要な二つの側面であると指摘し、前教皇フランシスコの言葉、「喜びと共に人生を味わいたいならば、この二つの態度を組み合わせなければならない。一つは、イエスの足元に留まり、イエスが啓示されるあらゆる神秘に耳を傾けること。もう一つは、神をお迎えすることにおいて配慮をもって準備していること。神はひと時の憩いと兄弟愛を求める友人の姿で、わたしたちのもとを訪れ、扉を叩かれる」を引用された。

また、「この2人の女性を通して、現在と未来、苦勞した者と休息した者、せわしない者と至福にある者、今の一時と永遠、という2つの人生が象徴されている」との聖アウグスティヌスの考察を紹介された。

さらに、特にマルタの仕事について、聖アウグスティヌスの言葉を引用し「他者をいたわるというこの奉仕から、免れ得る者がいるだろうか。疲労は去り、休息が訪れるだろう。しかし、休息は疲労を通してのみ訪れるのである」と述べた。

教皇は、傾聴と奉仕は、人生において主の現存に自らを開くための、互いに補い合う二つの態度であると説明された。(バチカンHPより抜粋)



1962年司祭叙階。64年〜82年六甲中学校・高等学校教員として科学を指導。同年本会日本管区長。70年〜75年学校内の修道院長。89年〜2010年聖イグナチオ教会(東京)助任司祭。10年から同教会で5年間教会協力司祭として司牧。83年〜86年・89年〜2001年泰星学園(福岡)理事長、89年



1964年司祭叙階。福岡県(古賀市)および徳島県(鳴門市)の幼稚園と教会において長年にわたり奉仕され、幼稚園園長としてモンテッソーリ教育を通じて、子どもたちと職員を大切に育んでこられた。生前、神父は「伝えられたことを伝え続けることが神の計画であり、イエス・キリストが教会という形で実行された使命。それは私で終わるのではなく、次へ次へと受け継がれていく教会の命である」と語っておられた。司祭叙階を受けたことについても「偉いことではなく、不思議な神の導き」と、常に謙遜のうちに歩まれた。

宗教科教員

宗教教育研究会で学び、分かち合う



近畿カトリック学校連盟・宗教教育研究部会は、近畿圏のカトリック学校の宗教科教員の勉強会である。サクラファミリアが北野教会であった頃から、各校の宗教科教員が集まり、始めた勉強会が前身となり、今日まで、約20年、学びと分かち合いを続けている。今年度の研究会は6月21日に始まった。研究会の委員でもある吉田利満神父(サレジオ会・大阪星光学院)の講話は、教室で授業をする教員の視線からのものであり、同じく日々授業に向き合う参加者は共感や気付きを得た。宗教科は、キリストの御言葉やカトリック教会・それぞれの修道会の心を生徒に伝える役目

を担う。「教える、ということに留まらず魂に届けた。いや、魂に「教える」ことはできないが、イエスのように「語りかける」とをしよう」と吉田神父は説く。幼稚園での園長の経験もある神父は続ける。園児に「教える」ことは難しい。園児は「語りかける」人の顔を見つめている。聖書について教えるのではなく、聖書、イエスのことを語りかけるのである。イエスご自身も、たとえを通じて教えたのではなく、私たちに何回も語りかけたのだから。教科書は「語る」ためにできていないが、聖書は、心を込めて語りかけることができる「福音」なのである。参加者は、宗教教

育の原点を再確認するように領いた。そして、その語りかけ、授業を生徒に届けるためには、語る人となる。私たち教員から生徒に関心を持つようにしたい。吉田神父は、生徒の話題にも耳を傾け、若者の流行にも興味を持つようにしていると語る。そして、「祈り」について説く。「祈り」はイエスと私たちをつなげてくれる。カトリック学校での「祈り」の意義にも話は及んだ。そして、宗教教育は、たとえば聖ドン・ボスコがそう願ったように、他ならぬ子どもたちの幸せのためにある。吉田神父の講話に力を得て、その後の分かち合いも充実した。最近は小学校教員の参加もあり、広



がりを見せている。研究会では、2月の黙想の家での宿泊研修や授業研究会、生徒同士のボランティア報告交流会など、カトリック学校の宗教教育の充実のために活動が続いている。研究会では、今後も各カトリック学校の宗教科教員などの参加を呼びかけている。(近畿カトリック学校連盟・宗教教育研究部会 代表 北川 清晴)

ト
報

パウロ栗本昭夫神父(イエズス会)は、7月17日、

教区の皆様

大阪高松大司教区
大司教 前田 万葉

2025年度 秋 人事異動

主の平和

立秋を過ぎ、暦の上では秋となりましたが、まだまだ暑い日が続いています。体調を崩されないようにご自愛ください。

以下の通り、人事異動をお知らせいたします。名前の後のかっこ内は現在の任命、矢印の右が新しい任命になります。

【8月16日付】〈岸和田地区〉

・Fr. グティエレス エルナンデス イルヴィン アロンソ S.X. (いずみブロック協力) ⇒ 教区外

【9月1日付】〈香川地区〉 小教区の担当司祭変更

・観音寺教会(旧) Fr.高山 徹 ⇒ (新)Fr.ティアゴ ダ コンセイサオ エステヴァオ トマス S.M.B.N.
・伊予三島教会(旧) Fr.松浦信行 ⇒ (新)Fr.ティアゴ ダ コンセイサオ エステヴァオ トマス S.M.B.N.

【9月14日付】〈姫路地区〉

・Fr.ゲストベオ ギャリー C.I.C.M (仙台教区) ⇒ 姫路地区 協力

【9月21日付】〈大阪南地区〉

・Fr.ホセ ラモン ルビオ モルデンハウエル(日本語研修) ⇒ 玉造教会 協力
・Fr.鄭 海成(日本語研修) ⇒ 堺ブロック 協力

【委員会・担当】

・大阪セミナリオ担当：(旧) Fr.上田憲 ⇒ (新) Fr.高山徹

来て見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

性虐待被害者のための祈りとつぐない◆第6回 テゼによる祈りの集い

日時 10/4(土)14:00～15:00
(その後懇談会)

主催・問 ハラスメント対応委員会
☎06-6941-9700

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

当面休止

主催・問 使徒職養成委員会
☎06-6941-9700

サクラ ファミリア主催

間かせてください 神さまと出会った時のこと～エマオへの道で～◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 10/6(月)18:00～19:30
10/7(火)10:30～12:00

お話 馬込新吉神父
(マリア会・大阪明星学園理事長)

コレーン神父の聖書講座◆「ルカ福音書における受難・復活物語・ルカからのメッセージ」全4回

日時 9/22(月)・10/20(月)・
11/10(月)・12/8(月)
13:30～15:00

和田幹男神父◆聖書研究講座「新約聖書概論」

日時 9/10(水)10:30～12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 9/8・22(月)17:00～18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00～19:30

問 サクラ ファミリア
☎06-6225-8871
✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 9/7(日)～9/28(日)
14:00～15:30(4回)

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 9/7(日)～9/28(日)
14:00～16:00(4回)

参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846
✉renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 9/18(木)・9/26(金)
10:00～15:30

指導 染野治雄神父(9/18)
山内十束神父(9/26)

参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 9/19(金)17:00～
9/20(土)15:30

指導 染野治雄神父

参加費 ¥9,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水)10:00～12:00

指導 染野治雄神父

参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00～12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

◆新約聖書の世界への旅

日時 第1(月)19:00～

指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

講座・研修会

アネモネの会◆高橋聡神父カテキズム黙想会

日時 9/25(木)14:00～16:00

場所 サクラ ファミリア

問 高橋聡神父

☎090-6329-5709

JLMM◆カンボジア報告会

講師 漆原比呂志さん

(JLMM事務局長)

日時 9/28(日)11:30～12:30

場所 教区本部事務局 1F

主催・問

カトリック大阪高松大司教区
☎06-6941-9700

シドッティ神父が伝えたレガシー◆巡回展・講演会

講師 古居智子さん(作家・著書『密行 最後の伴天連シドッティ』)

日時・場所

【神戸海星女子学院大学】

講演会 10/1(水)10:00

巡回展 10/1(水)～10/9(木)
土日を除く

【大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂】

講演会 10/11(土)14:00

巡回展 10/11(土)～10/23(木)

【サクラ ファミリア】

講演会 10/25(土)14:00

巡回展 10/25(土)～10/26(日)

主催・問

NPO法人やくしま未来工房
✉info@yakushima-sidotti-

museum.com

後援 イタリア文化会館 大阪・カトリック大阪高松大司教区・カトリック鹿児島司教区他

講座◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15～35歳までの若者の集い

日時 第2(土)14:00～16:00

場所 大阪YCWセンター(またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エッファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(水)10:00～12:00

場所 教区本部事務局

1階会議室

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い

いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00～16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎☎078-583-2525

✉yassan.yoshikawa@nifty.com

力障連大阪フレンドリー

◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時・場所

奇数月 第2(火)13:30～15:00

姫里集会所

偶数月 第2(水)13:30～15:30

北須磨教会

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan

@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方 ※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)

10:00～14:00

場所 姫里集会所

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:00～14:30

問 森田 ☎079-426-5704

行事等日程

9月

1	月	すべてのいのちを守るための月間 すべてのいのちを守るための基金 (献金) (～10/4迄)
7	日	被造物を大切に世界祈願日
10	水	10時半 顧問会・責任役員会
11	木	〔常任司教委員会〕
14	日	十字架称賛 祖父母と高齢者のための世界祈願日
23	火	13時 病者・障がい者とともに歩むミサ(桜町教会)
24	水	教区健康の日
28	日	世界難民移住移動者の日(献金)
		10月
2	木	〔常任司教委員会〕
7	火	ロザリオの聖母 大阪高松教区 守護聖人
8	水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会

9月司教予定

「行事等日程」以外

・9/3 万博 Lucca大司教区
シンポジウム(†M)(†S)

・9/4 シノドス学習会

(†M)(†S)

・9/6 京都文化センター講演会
(†M)

・9/23 病者・障がい者とともに歩むミサ(共同司教区聖堂)
(†S)

・9/28 池田教会堅信式(†S)

・9/29 万博 シドッティ神父
講演会(†M)

†M＝前田万葉枢機卿

†S＝酒井俊弘補佐司教

はばたき

すべての命を守るための月間が始まりました。

私たちが一歩踏み出すことで、結果的にその命を守る事ができるかもしれません。我が国では、ハラスメントやいじめ対策が充分ではありません。目や耳に蓋をせず、思い切った手を差し伸べる事で救われる人もいます。ではないでしょうか。

「すべての命を守るため」と聞くと、身近な方が亡くなった事を思い出します。感じた兆候に声をあげる勇氣が持てなかった事が悔やまれ、私に何かできる事があったのではないかと考えてしまいます。

(和歌山地区
場野の幸代)



外国人が暮らしやすい社会をめざして！
各国料理の出店・歌や踊りのステージ

インターナショナル・デー
INTERNATIONAL DAY
2025

～外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい

A society where foreign residents can live easily is also a society
where Japanese people can live easily

2025.10.19 Sun 12:30-16:00

St.Mary's Cathedral

大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂



★出店・ステージ申し込み締め切りは 9/8(日)
Registration for Stage & Food Stand: due 9/8 Mon.
★問い合わせ: カトリック大阪高松大司教区
INTERNATIONAL DAY 準備会事務局
Informations INTERNATIONAL DAY Preparation Committee
TEL: 06-6942-1784 / FAX: 06-6920-2203
Email: sinaps@ostk.catholic.jp
共催: カトリック大阪高松大司教区
外国人との共生をめざす関西キリスト教代表者会議
外国人との共生をめざす関西キリスト教連綿協議会
後援: 外国人住民基本法の制定を促す全国キリスト教連綿協議会



NO Parking 駐車場はありません